

小山乃里子の
ノコチヤン

華麗なる食べある記

△19▽ 料亭 花くま 路

△20▽ レストラン フック花隈店

□ 花くま 路

★一品一品への心くばりは懐石料理の真髓

花隈の料亭といえば、明治の元勲の名前などがすらすら出て来る雰囲気があり、老舗というイメージがどうしてもつきまとったが、この「路」は、その中では格段新しい。まだ六年にしかならないといふ。

それなのに、かなり食通の間で知れ渡っているのは、やはり料理の美しさとおいしさのせいか。美しいというコトバを思わず使つてしまつたが、日本料理の特長は、出された時の、その一瞬目に入つてくる、姿形の美しさにあると思う。その思いは、ここの大石料理の最初に出された、ぎんなんと、くりせんべいに、そして箸置きにまづ見たのだった。栗のいがの上に、栗を薄くうすく切つて揚げたせんべい、小さな器にもられた銀杏の上に、からませた二本の松の葉、箸置きがこれまた松葉をたばねて二ヶ所を縛つてあるのだ。こんな心のこもった箸おきをみたことがあつたろうか。

九月に出される料理には、夏を惜しむ心から名残り料

理、九日の重陽の節句を祝つて菊料理、この二種類がある。まず菊料理。白い菊の花びらの中に、鯛のおさしみがかかるようにのつかっている。昔、この菊の花の上に綿をのせ、露や香りを綿にしみ込ませて、その綿で身体をぬぐつたり、酒にしませて飲んだりしたものだといふ。長寿のまじないといつてしまえばそれまでだが、そんな、きせわたの話など教えてくれる人も少なくなつた。鮎料理が出る。これが夏の名残りなのだといふ。鮎の菊花むし。菊の花びらが鮎の上にハラハラとかかり、菊の花を食べると美しくなると言われ、これはとても熱心にいただいた。無花果の田舎煮、甘くもなく、といつてもいいわけでもなく、実にあつさりした風味。鴨のほう葉焼きが出て来る。小さなコンロに炭火がいこり、ほうの葉の上には、鴨の肉と玉ねぎの薄切り、色づく程度に焼けたものを酢みそで食べる、この辺から季節は夏をはなれ、秋も深まつた頃といった感じ。そして「養揚げ」で私の感心は驚嘆に變つた。海老のころもまいてあるのは、そうめんだと思っていたのに、なんと細く細く切つたじやがいもあり、それをまぶして揚げてあるの





▲点心。ほんとうの懷石を気軽に味わえる

一品一品に心をくばり、目で味わい舌で味わえる日本料理は総合技術ですと話す料理長の半田博さんと女将さん



せようと、かなり上品にふるまつていたのに、つい出したコトバがこれ。あっ、いけない、メモを見落していた。萩どうふもあったつけ。ゆずの香りと枝豆の緑の美しさ。そして、かにの飯むしというのも食べたんだった。輪島ぬりのおぼんやおわん、簡型のお茶わんや皿の一枚一枚に、実に神経が行き届いている。さすが食道楽からこの道に入ったという女将さんと、包丁一筋二十一年の料理長の息がぴったり合つたって感じで、久し振り心落ちつかせた一時だった。

懐石料理／13000円／ひょうたん弁当／1800円
2500円／点心／3500円
生田区花隈町 電話番号382-1018 正午～午後9時（オーダーストック）
（ア）ただし午後2時～4時休み 日祝休

□ フツク花隈店

★ 静かな坂道のディナーサロンで良質の神戸ビーフ

最近、花隈が変つたという噂を聞く。どう変つたかといえば、マンションがたくさん建つたという。それなら電車の中からも、車通りかかるつても見えている。ところがそのマンションの一階に、素敵な店が色々できるのだという。そういうえばもう久しく花隈を歩いていい。花隈公園の上で、大きな声でうたをうたつて茂みの中のアベックを驚かせたのはもういつのことだったか。なるほど、色々お店もできるなあとキヨロキヨロしながら歩いてみた。たしかこの辺り、治作があつた筈。アレ、無い。へエーとびっくりした目に、そのあとに建つたマンションと、道路からぐつと奥まつたれんがの壁が入つた。足もともれんがである。二年前にオープンしたというフツクの花隈店がここである。一步中に入ると、渋いマホガニー色をした壁と足をやさしく包むじゅうたんの色といい、外の車のけん騒はることは無縁のものようだ。聞けばマスターの岩田さん、趣味がこうじ

フック花隈店



▲炭火で焼き上げたステーキ

肉のサシミをオードブルに召し上がる方が増えました、と
岩田夢隆さん

てどうか、室内設計まで一人でやってしまったとい
う。

オードブルに肉のさしみをいただく。にんにくのすり
おろしたもの、しょうがのすりおろし、それをほんの少
し小皿に取り、しょう油をたらしてちよいとつけて食べ
る。ところとやわらかく、いくらでも食べられる。さら
した玉ねぎが適度に甘い。新鮮なへれ肉を使っている
が、ステーキ用とはもちろん別のものである。薄い膜に
包まれて、大切に取り出された肉を鋏い包丁が一枚一枚
と切っていく様を、なぜか頭に思い描いた。

スープは私の好きなオニオングラタンである。いつも
のようにたっぷり粉チーズを入れ、ふわふわ浮いてくる
のを舌にからませるようにして味わう。チーズがやわら
かいおもちのようになり、実においしい。

メインディッシュはステーキである。炭火で焼き上げ
たヘレ肉にくつきりと金網のあとがついて、その綱目の
一つ一つから香ばしい肉の香りがただよってくるよう
だ。ステーキの上にかけるドミグラス（肉汁）は、一週
間煮つめて味を深くしたものとか。このごろこんなお店
は少なくなった。ステーキを切れ口に入れる。さす
が、フックといえばステーキというイメージ通り、より
すぐった肉の良さが味にじみ出てくる。けれどこの花
隈店は、ステーキハウスではない。フランス料理の看板
通り、魚料理その他メニューは豊富だ。ただ、私がお肉
を選んだまでのことで、フランス料理の面目はデザートに
出されたシャーベットにあらわれた。店特製の。実に口
当りの良いワインレッドのかたまりは、店の雰囲気のよ
うに上品で、そしてゴージャスだった。

ステーキディナー（A）／5500円 ローストビーフ（金曜日のみ）
／4000円 エスカルゴ／1300円 伊勢エビチーズ焼／400
円 伊勢エビソースアメリカン／400円
花隈店／生田区下山手通5丁目自26番351-15255
後9時 第3日曜休 午前11時～午

東店／生田区栄町通1丁目5-3
後9時 日曜休
午前11時～午

いま、初孫、銀太と秋は中国に



「それは、神ちゃんがかわいそうや、せつかくのお嫁さんを引き離してまで、中国にあげんでもええやないか。」

亀井さんの弁明を聞きたい。」

去る八月二十九日付各紙にチンパンジーの銀太(三才)と秋(四才)の二頭が中国天津市水上動物園に贈られるニュースが掲載されたその夜、ボクの家の電話が鳴りっぱなし、翌日には抗議の手紙さえ届いた。

正直いってお父ちゃんであるボク、どの子も、区別なく可愛いし、誰にもあげるものか、と居直ろうとする親心と、国際交流という政治、さらには各地の動物園で



初孫の銀太(3才)を神ちゃんと秋ちゃんの住みかに同居させたところ、ご覧のように、銀太<写真・小柄な方>と秋ちゃんが大変仲睦じくなり揃って天津市水上動物園へ。

の繁殖による二次的とはいえ、野生保護につながるという自己へのいいわけとが身体中でぶつかりあって、受話器を手にしたまま、「はい、あのー、それはですね」と、しどろもどろ、明解にお答えできなかつた。

もちろん、会議の席上で上司に、外国から買いつけたものを差しあげるなど、それでは失礼ではありませんか。同じ差しあげるのなら、神戸育ちのものを、と銀太と秋の中国行を了承したのも父ちゃんであるボクだったからだ。

「メス秋ちゃんのこと」

生後間もなく母親を失くしたオスの神ちゃんを人工で育てた四年めにある五十三年十月、東アフリカ生まれのメス秋ちゃんをお嫁さんとに輸入した。それは丁度秋の頃、そこで秋ちゃんと名づけてやつた。

チンパンジーの性教育は、群の中で親たちの姿を見ながら、真似していくという学習がなければ、インボテンツになってしまふ確立が非常に高い。本能だけでは本交尾ができない哀れな生涯を過ごすことになつてしまふ。

しかも、学習年令にも問題があるので、できるだけ早い時期に群生活させ順次学習を受けさせることが望ましい。そこで神ちゃん四才、人間でいえば八才。小学生高学年の頃に秋ちゃん三才を迎えてやつた。野生育ちの秋ちゃん、まだ三才。人間では六才という幼児年令でありますから、三年間の野生の学習を十分に身につけており、初対面の神ちゃんにお尻を向けたことから始まつた、神ちゃんとの“同棲生活”が、ほのぼのとした話題となつて茶の間にニュースとしてとどいたこと、つい一年前のことだつた。

抱きあつたり、後ろからマウントしたり、嫁さんの秋を後ろにさがらせ、オスらしくいたずら者に立ち向つた神ちゃんの男性への成長は一年間で著しく育つた。いや、父ちゃんも入れこめないチンパンジー本来の対話が幾つもあつたろう。だからこそ、

「神ちゃん近頃、荒々しくて、いつも可愛いことあれ

「へん」などと、言われるようになつた。

〔少年少女期の二人？は未婚だった〕

ところで、後ろからマウントを見せてた神ちゃん、ほんまに結婚してたのだろうか。

ここに至つて父ちゃん、えらい弁明してはる。と思われようが、神と秋との経過を少しばかり記しておくことにする。

結論から言つて、神ちゃんたち、性行動の真似ことは見られていたが、彼等の性成熟は満八九年。あと三四年しないと、メスの生理もはじまらないので、もちろん繁殖もずっと先のことである。となれば、つまり、神と秋との生活は、将来のお嫁さんとの同居生活にすぎなかつたことになるわけで、もはや結婚していたかに思われる。親馬鹿的父ちゃんの発言が、少なからず、神ちゃんファンの皆様に激奮させる結果にもなつてしまつたことも合わせてお許し願いたい。

さらに秋ちゃんほんまに神ちゃんが好きだつたのだろうか。同居十ヶ月が過ぎる頃から秋ちゃんの体重の増加が目立ち、神ちゃんと区別し難いぐらいに二人？は成長した。ところが、その頃から、神ちゃんの荒っぽさが目立ち、時折り激しく咬みあつて争い、秋の背に咬み傷が途えず毎日のように軟膏を塗つてやる一方、ケンカのさなかとびこんで行くこともあつた。

〔秋は銀太に抱かれ、神は知らん顔〕

神と秋二頭よりも、こうした少年期にこそ、同居させ最も小さな三頭という群作りを前々から考えていたので、この際三者を同居させて見ることにした。

銀太を入れると、グア！と声をあげて、神も秋も銀太の方へ走り寄つていつたが、神ちゃんは、もう秋が来るまでに何度も同居していた仲だから、さほど興奮もしない。何だか狭いオリの中を三頭がくるくるはい回るばかり、と、暫くして事が起つた。先頭の銀太の尻をさかんに臭ぐ秋ちゃんに、突然駆け寄つた銀太、なんと、真

正面から、まことにうまく秋に抱きつき、そのまま座りこんでしまつたのである。

それは丁度秋と神が、こんなに仲良くなりました。

紙上に載つた当時と全く同じシーンの再現だつた。そうした秋と銀太との仲の良さにも知らん顔の神ちゃんに少なからず哀みを感じる父ちゃん、神、あんな秋なんか放ついたらええ、もう暫くしたら日本生まれの子育てを覚えたええメスを迎えてやるからな。

〔いま、神戸生まれのキリンと共に〕

そうはいっても、父ちゃんの心の中には、どの児もみんな王子動物園に生涯飼つてやるべきだ。しかも群作りに時間をかけ、近い将来には二〇／三〇頭のチンパンジー村を神戸に作つてやりたいという思いがある。

いや、人間に最も近い類人猿の群家族の生活を探ることによって、我々人類の祖先の生活がのぞける。いまや「人類の祖先を探る！」という世界的な大テーマを、こうした展示飼育の中からも探ることがどれほど大切なことか、つくづく思つてならない。

複数のオスに複数のメス、常に子持ちの母ザルとリーダー格が、群の中心部に集まり、夜には、ひとりひとりが、直径1m、ダンプのタイヤくらいの寝床を木の枝や葉で作り、仰向けに眠る。こうした野生そのまま何十頭もの家族群を見ていた

だく動物園のすばらしい

さは夢ではない。さらに、銀太と秋の子が日本に里帰りして来るに違ひない。その頃には、銀太も秋も、長生きするんやで。△王子動物園



元気に行って参ります！ 銀太様

園芸員／写真も△

ニュース漫画△神戸新聞『笑点』▽を

必死のパッチで描き続けて七、〇〇〇回（二〇〇年）
△海軍めしたき物語▽が好評の

たかはしもう笑品集

内 容 「最新カラーマンガ」（9頁）

「笑点20年」（36頁）「似顔絵—〇〇人」（54頁）

「ニュースマンガ家の一日」（4頁）

お男込みは「たかはしもう出版会」（月刊神戸っ子編集部内）

送金方法／太陽神戸銀行三宮セント一ビル支店普通預金一一五二七〇四「たかはしもう出版会」
または月刊神戸っ子あて現金送金してください。

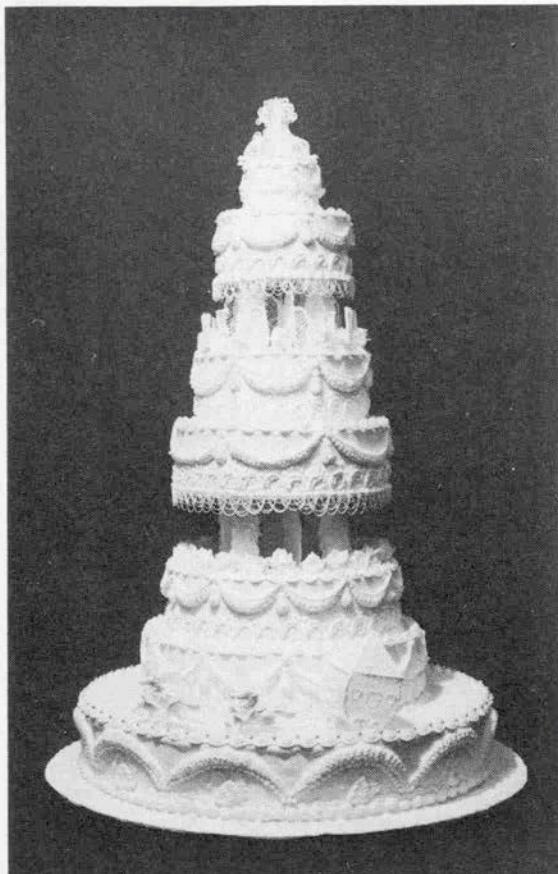
二、五〇〇円
〔送料二〇〇円〕

熟年・バーバリー。

1856年、スコットランドはハンプシャーに誕生。
英国王室から騎士と騎馬のマークを
授与された正統派ブリティッシュルック。



Burberrys®



♥ウェディングケーキのご予約承ります♥

ドイツ菓子

コロンバン

本店/トアロード・331-9723 南店/トアロード・321-3114
鰐川筋店/332-5406 元町店/341-7094 センター店/332-4054 他

ソフィスティケーテッドレディへ



顕微鏡・天体望遠鏡・航海計器・光学器一般

服部メガネ店

神戸・大丸前 TEL 331-1123

★神戸の集いから

★神戸市政府熱烈歓迎

中国京劇院訪日団



孫悟空役の李光さん（中）と陳舜臣夫妻／神戸華僑のミセス達と京剧団の人々
秋一番。久々に中国京劇院訪日団を神戸文化ホールで九月十二日に開け、熱狂的な拍手をあげた。その前夜、一行を神戸市が招いての歓迎レセプションを相楽園会館で催した。狩野助役は「日中友好条約後、二周年目の文化交流が出来て嬉しい」といえば賀敬之団長は

「日本人の熱烈歓迎と神戸の友人の心こもった挨拶は数年来の友好関係により、北京から天津に来たようない気分」返礼と返礼に次々



新谷琇紀、竹村まことのハワイ娘も登場



左より、筒井康隆、川野・田辺ご夫妻、高橋孟さん

セブションを相楽園会館で「海軍めしたき物語」出版を催した。狩野助役は「日中友好条約後、二周年目の文化交流が出来て嬉しい」といえば賀敬之団長は

「日本人の熱烈歓迎と神戸

と団員が唄い、二百名近い会場はなごやかな交流会だった。

★仲間が声援！高橋孟

「海軍めしたき物語」出版

★よーやる！
羽あいとなつく祭り

八月三十一日夜、グルーピカルナイトを開いた。小池管長のスープーマン。新谷琇紀、竹村まこちゃんのハワイアンダンス。清村のアラビアの踊り。仮装コンテスト。福引き大会ディスコになって雪ならぬ雪のかたまりが降った。夏の終りの底抜けお遊び大会だったが、よーやる！

ハワイアンダンス。清村のアラビアの踊り。仮装コンテスト。福引き大会ディスコになって雪ならぬ雪のかたまりが降った。夏の終りの底抜けお遊び大会だったが、よーやる！



夏の夜に盛況 8若の会

★8の会・8若の会
夏の二夜に集う

♥小泉パーティご案内

小泉パーティは

結婚を希望する男女にお見合や愛好会によって健全なご交際のお手伝いをいたします。身元の確かなことは良縁の第一条件です。身元の確かな方々の会員制の集いです。

・入会金 10,000円・年会費 10,000円

<秋の結婚シーズンを迎えて>

ご婚礼のお買物のご相談は

神戸マリッジへ（無料）

楽しいご婚礼のお買物をご予算に応じてプランニングし、神戸の一流の専門店をご紹介いたします。

《協賛店》

家具の江戸屋・宝石のタジマ・ふとんのつゆき
紳士服のニッケショールーム・和装のみよしや
旅行の日本旅行・他各種の専門店

小泉パーティのご案内・入会書類ご希望の方は
事務局 〒650 生田区北野町3丁目10-2
淡島マンション105号 ☎078-242-0333 小泉正巳
お問合せ、ご連絡は午前中又は夜間に。



豪州をゆく 車イス

橋本 明／社団法人「家庭養護促進協会」事務局長▽



訪問記念撮影。右端後ろがマクレオド氏
(写真いずれもシドニー郊外のセンターインダストリーズ
で、本多正男氏撮影)

昨年の九月下旬、オーストラリアのシドニーからある障害者のグループが日本を訪れた。このグループはシドニー郊外に身障者の福祉工場「センター・インダストリーズ」を創設したマクレオド夫妻と、その工場で働く重度障害をもつ人たちで、神戸も訪れ、阪神間の身障者と交流を深め、またマクレオド夫妻の人柄と講演は関係者や身障児をもつ母親たちにも大変深い感銘を与えた。この日豪両国の福祉交流の様子は昨年の本誌11月号で紹介したが、このマクレオド夫妻一行の来神がキッカケとなり、神戸の身障者や関係者たちが、話に聞いた夢のような福祉工場を自分の眼でぜひとも見たい、そしてこの工



歓迎昼食会で

一行が発った日本は真夏だったが向こうは真冬。短かい期間に福祉工場、授産所、養護学校、リハビリテーションセンターなどを自らの足でまわり、同じ仲間たちの自立して生きている姿を自分たちの眼で確かめてきた。訪問の中心は何といってもシドニー郊外のアランビーハイツにある「センター・インダストリーズ」だ。

マクレオド夫妻を中心に障害児をもつ親たちが自らの力で34年前に創った小さな作業所が、今では健常者約五百人、重度障害者約三百人、計約八百人もの従業員をかかえる世界的に名を知られた一大企業に発展したのはまさに奇蹟と

場のことをもっと知りたいという気持ちにかられ、一行の来神をお世話をした兵庫県肢体不自由児協会が中心となつてこの夏、念願の「日豪福祉交流旅行団」(大森忠男団長)が実現した。

一行は身体の不自由な青年十四人と、医師、介護人、スタッフを含めて25人。8日間の短い旅ではあったが、南半球の大陸を訪れて多くの人に出会い、参加者はみんな数え切れないほどのたくさんのおみやげを胸の中にしまって帰国した。

一行が発った日本は真夏だったが向こうは真冬。短かい期間に福祉工場、授産所、養護学校、リハビリテーションセンターなどを自らの足でまわり、同じ仲間たちの自立して生きている姿を自分たちの眼で確かめてきた。

いっていい。電気通信機器の部品などを主に製造しているが、他の民間企業と比べて少しも遜色のない成果をあげている。工場には車イスの下肢障害者が多いが、中には両手足とも麻痺している人は頭に取りつけた細長い棒でタイプを打つたり、他の仕事をしているのには驚かされる。一行のある身障青年は「人間を機械に合わせるのではなく、一人一人の人間に機械を合わせる」という考え方で大変感銘をうけたという。

ちょうど一行がこの工場を訪問していた時、日本の富士通から電報が入り、富士通とセンター・インダストリーズの間に電気部品の製造で長期契約が結ばれるという嬉しい知らせが入った。さっそくマクレオドさんは一行にこのニュースを伝え、まつ昼間から水割りで乾杯をした。日本の企業がこの会社と契約を結んだのはまだ富士通一社だけという。

この工場の訪問では、昨年神戸を訪れた車イスの障害者の再会を喜び合い、話はつきなかった。



お別れパーティで話がはずむ

な授産所は箱詰めなどの手作業をしており、神戸の共同作業所などとたいして変わらない印象を受けたという。センター・インダストリーズでは何もかも新鮮な驚きでいっぱいだったが、この小さな授産所では身近な親近感をおぼえた者が多かった。

そしてセンター・インダストリーズがオーストラリアでもまさに例外的な存在であるということを改めて知った。大森団長は、「この小さな授産所を見ることができてよかったです。日本の青年たちが、オーストラリアにはみなセンター・インダストリーズのような素晴らしい福祉工場ばかりがあると誤解してはいけませんからね」とい、「それにここでも身障者が近くの市場などへ買い物に行くと、へんな眼で見られることだつてあるようです」とつけ加えた。どこの世界にも差別や偏見はまだまだならないようである。ところでこのオーストラリアでは、ミス・オーストラリアの美人コンテストがこの工場の主催で毎年開かれるという。もともと脳性マヒの子どもたちの募金活動のために始められたのが、この美人コンテストは一般の人たちの眼を福祉に向けさせるのに大きな役割を果たしているようだ。

この旅行に参加したある青年は、日本で福祉といえど何かを「してあげる人」と「してもらう人」に分けてしまふ感覚があるのが残念だといい、大森さんも「日本には“共に生きる”という考え方があまり育っていないんですね」と指摘する。これを意識してかわからぬが、この夏ある日本のテレビ局が展開した24時間テレビチャリティキャンペーンのテーマが「Let's live together!」(共に生きよう)であった。十億円近い寄付がよせられたそうだが、日常の生活の中で本当に「共に生きる」という思想がにじみでてくれれば日本人の福祉ももつと変つてくることだろう。

オーストラリアを訪れた青年たちが学んだ貴重な体験は、これから日本の福祉活動の中で大いに生かしていくほしいものである。

六甲高山植物園

ホラ、植物たちの囁きが

江頭 越子

（詩人）

・六甲山100コス



花をめでる筆者

作られた風景の中におかれても
確かに生きた花です

六甲山には何度も登りながら、六甲高山植物園に行くのは初めてであった。昨夜からその時間の来るのが待遠しい。最近、妙に山や海、草や木に会えるということに心が弾む。

都会のマンション住いが長いと土や植物とのかかわりが遠く、求めていかなければ自然ははるか彼方にあるものとしか思えない。

午前十時、芦屋川より国道二号線を走って六甲山に向う。国道沿いの樹木も、あらためて見ると点々と緑が続いているのだけれど、この暑さと排気ガスで青息吐息なのに「俺は木なのだぞ」と懸命に立っている感じがする。日頃、自動車で走っている時、その樹木のみどりを全然美しいとも何とも感じていなかつたことに気づく。石屋川沿いに山に向って、カーブの多い道を走る。さすがここまで来ると空気も透明になり、まだまだ自然はたっぷりあるなあ」と嬉しくなってしまう。六甲山を登り切ったあたりにちらほらと案内板が見え、観光地六甲の一面が見えて来る。

エーデルワイスという喫茶店に着く。ここが高山植物園らしい。というのは表示板を見ないと植物園ということが判らない。エーデルワイスという喫茶店の横が入口で、あたりの自然とまくとけ込ませて植物の谷は作ら



耳を澄ませると、植物のささやきが聞こえて来ます

れてあつた。牧野富太郎博士の指導のもとに、昭和八年開園されたという広さ五万平米の中にヒマラヤ、ヨーロッパ、アルプスの植物四百種、六甲自生の植物が八百種あるという。これだけの高山植物を育てている所はめずらしいと、園内を案内して下さった主任さんの説明でした。最高気温二十七・五度。それより十五度位下があるらしい。園内はそれぞれの植物にあつた場所を作り、丁寧に植物の名前が表記されていて、その名前が木や草の姿にピッタリなので思わず笑ってしまいます。園の一番の見ものは「ロックガーデン」と「ヒマラヤ植物園」。高山の花畠を再現して岩石を主体にして作ってあります。こここの花の女王は「コマクサ」。ピンクの透明な小さな花が今にも溶けてしまいそうに昔のような葉と共に、人々の目を集めています。高山植物はその気候と風土に順応して、背は小さいけれど根を深く地におろして這うように生きています。日本に連れて来られたヒマラヤの

植物達は人工的に水を与えたために、根は短かく浅いそうです。六甲山の気候に自身を合わせて、命あるものが生きのびようとする恵みというか、自衛の本能のし

生きるというのは

自分の根をはることで
自分に合った土を探し水をか

相をはなことた

園内を全体制的に見ると、よくまとまっています。皇太子様がいらした時に作られた「プリンスプリツチ」という白い橋が池にかけられています。その横が人口を真向いに見る一番眺めの良い場所です。ここで、じっと坐っていると植物の香りやさわめきが聞えてきます。園内はたしかに人工的に作られているのですが、周囲の樹木が長い年月に育つて、鳥も虫も、自然に住んでいます。雑草も種を飛ばして名もない草が生きています。こんなに自然の中にすっぽりと入り込める所があるとは、知りませんでした。人々は此處でだけはのんびりとした顔をしていて、いつまでも此処にいたいのに……。木々の間から坂を登る車のざまざましいエンジンの音が、人と車のひらめく都會に帰つていかなければならない気持をうながしています。



神戸市立六甲山牧場

秋空の下、愛馬に乗つて

島本 直子 △画家▽



愛馬とともに

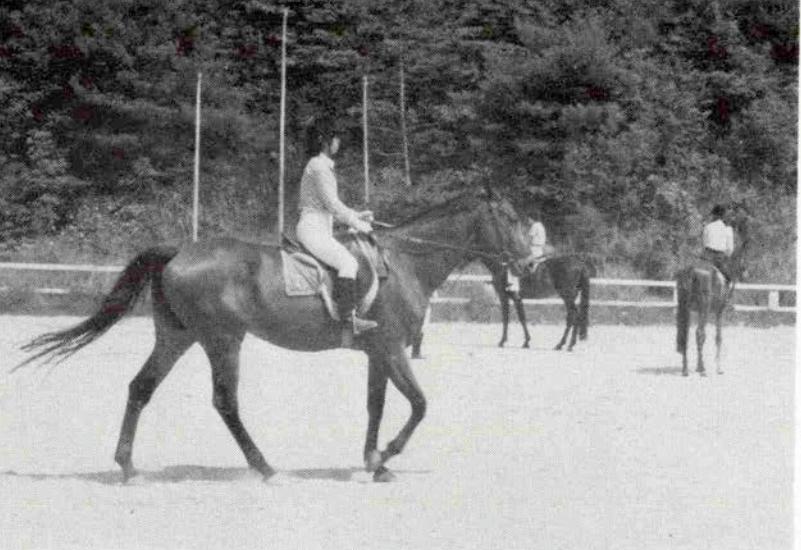
日々を送っていた。何とか彼女の余生を牧場でのんびり放牧でもしてやれなかつたのだろうか。

私が六甲山牧場の乗馬教室に通つたのは、数年前、高校二年の夏休みである。馬を知るという目的を主としたそこの乗馬教室は、当時馬の数が足りなくて、今でいうボニー（道産子）の車輪まで駆出され、大きな馬の後ろから一頭チビがついていて、おまけに私が乗つた時など、厩舎に帰りたがつて馬場の柵を折らないかと思うほど頑張つていたのを記憶している。サラブレットのハヤテ、ホクリュウ、ハツヒメ、それから中間種の育晴、そして、先の車幹と、この五頭で教室を行なつていた。今はもう、ここにあげた馬達はいない。一頭減り、また一頭減りと、この七月二十八日に、最後まで残つていた育晴が逝つた。育晴——彼女はおとなしく、どんな物音にも驚かず乗手が初心者でもさばることを知らず、安心して乗れる馬だつた。四年前、神戸市動物愛護協会から、長寿動物表彰を受けた。その彼女が足を痛め、座つたり、立つたりの

日々を送つていた。何とか彼女の余生を牧場でのんびり放牧でもしてやれなかつたのだろうか。

動物の直感というものの、または本能というものには時に何か恐いようなものがある。数年前、キオバーカという馬が夜中に、馬房の柵をくぐりぬけ厩舎で他の馬を喰んだりしたことがあつた。骨折して、起き上がる事も出来ず、苦しそうな状態であるのに、彼は私達が刈つてきた青草をものすごい勢いで食べた。それが本能というものだろうか。自分の死期が近づいてきているのを知つてからこそ、少しでも生延びたいと青草を食べたのだろうか。育晴——彼女も又、果物好きだった。彼女の為に人参をやると嫉妬する他の馬達がその時はおとなしく彼女の様子を見守つていたと言う。馬は人間より命が短い。だから仕方のない事かもしれないけれど、そのような事を、目前に見たり、聞いたりする度に、一頭ずつ馬が減る度に、私は『もう、馬に乗るのはやめよう』と決心する。その決心が崩れるからこそ、続けてくるのだけど……。育晴の骨の一部分は、牧場内にあるりんごの木の下に埋められた。りんごの木という何故かほのぼのとしたイメージと、育晴のどつしりした体とが、私の脳裡で妙にやさしいハーモニーを奏でていた。

古い馬達はぼつぼつと減つていったけれど新しい馬達も徐々に増えた。私と写真に写つてあるハーディも数年前に六甲に來た。今的新しい厩舎が出来てない頃で、古



秋深まる六甲山牧場には乗馬を楽しむ若人の姿が多い

い厩舎に入れる所がなく、少し下った所にある別の厩舎にクモミネという馬を入れていた。誰も乗っていない頃から青草を刈ってやりに行ったりしたせいか、少々嘔む癖もあるけれど、私は何故か彼に愛着を感じる。

二年ほど前、私はハーディから落馬した。彼は今でもよく跳ねる。その時も速歩を出したところぐらいだった。私のつけていた拍車が当ったせいか、ともかく後ろ足を跳ねた拍子に、私は落馬した。下手な落ち方をしたもので、丁度、胃の裏あたりの背中を強く打って、情ない事に、声も出ないほど痛かった。ふと見上げると、ハーディ



イが振返つて『このバカが簡単に落っこちた』という目をして私を見つめていた。数人の人達に拘がれて、馬場の外のベンチで一寸休んだ。でも、あのハーディの目がチラチラと思いつぶんできたら何だかしゃくにさわってきて「私、乗ります」と言つて、私は再び騎上の人となつた。もう走らせず、並足でゆっくり歩いた。落馬して背中の痛かった私にとって、厩舎から馬場に降りる坂道を、ハーディの背に揺られて登つたのは、却つて楽だったと思う。翌日、乗馬センターの木下先生に紹介していただけた外科に行つた私の背中は、背骨のつなぎ目の軟骨がびよこんと飛出していた。それからと言うもの、とにかくハーディだけは何とか乗りこなすようになりたい、乗りこなすという大きさというものでなくとも、せめて、そう簡単に落馬しないようになりたいと思い、何故かハーディばかり乗り続けている。

乗馬していく牧場の羊が柵の周囲の草を食べに降りてきたり、野生の雉子がいたりするのも、六甲山牧場ならではの光景だと思う。

今いる馬達が各々に元気で長生きして欲しいと祈りながら、本当に大切に乗つて行きたいと思っている。



「京劇」のパンフレット

この梅蘭芳はすでに故人となつたが東京で見えた彼女の「貴妃醉酒」は絶品であった。こんどは③を最初に見たのだが④の「霸王別姫」も見る。すでに切符は一ヶ月前。中国がいかに立派な国かを私は京劇をよく身にしみて悟つた。

映画や演劇というものがその国の国柄か

九月二日、国立劇場で待ちかねた「京劇」をついに見えた。この日は⑧ログラムで「野猪林」「三岔口」「秋江」「拾玉錆」「水漫金山」であった。

これは二十三年前にも見たし、そのあともまた見た京劇の自慢の作品そろいだけにいま見ても面白かったし酔わせられました。しかし十何年間というあいだ中国はこの京劇を禁止していたので、やっぱりその中止期間が京劇のねばりをうすめている。

最初に京劇を見たのは神戸の聚楽館だったと思う。梅蘭芳（めいらんふあん）の「天女散花」の美しさにびっくりした。

づく身にしみて悟った。
映画や演劇というものがその国の国柄を知らせてくれる。日本の歌舞伎や文楽が外国に巡演して、外国人は日本の芸術に今さらに驚いている。

大正時代は明治文化が花をひらき実をみのらせた時代。そして今ようやく日本はほんの少しその時代に近くなってきたという気もするのである。本物のぜいたくは感覚教養を身につけてから本物となる。

「木靴の樹」（イタリア）「旅芸人の記録」（ギリシャ）が岩波ホールでヒットして「旅芸人の記録」は連日札止めで切符を手に入れるのに客のほうが苦労している。しかもこれは三時間五十二分の長篇である。

よく昔、聚楽館などで「インテラーンス」や「シビリージェーション」などが特別興行され入場料は一般的の倍ちかい高額であったが客はつめかけた。少年の私は「シビリージェーション」などは半分眠ってしまったのだが、きびしい反戦映画のことだけはかすかに記憶している。見たときは眠たかったが、あとでその映画の品格をあらためて感じるということもある。

<21>

淀川
長治

映画評論家

秋—— わたしたちを実りたい

ところで東京では

X

けれども表現の仕方を新しい映画感覚でこころみるの
は映画のひとつの楽しさでもある。

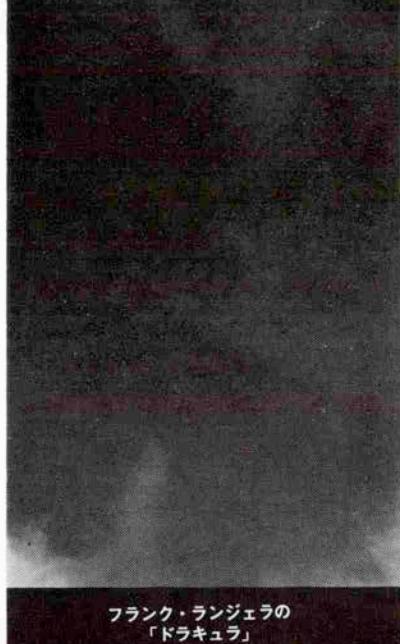
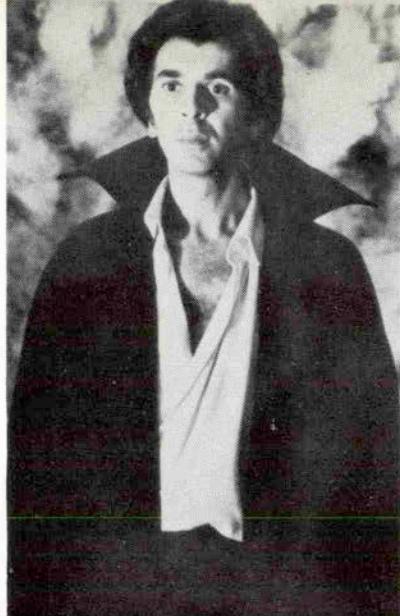
「旅芸人の記録」は疲れはてた旅芸人の一座がもくもくと道を歩いているうちに一九五二年の秋が同じ画面のまま一九三九年の秋に変ってしまう。そもそももくと歩く一座の足どりに十三年間このように歩きつづけたのだという無言の抵抗と忍耐がこれでよくわかつてくる。

フランク・ランジェラ主演の『ドラキュラ』（一九七九年）を見るとそのタイトル・パックは満月の夜の丘の上の古城である。そしてキヤメラがその古城を遠景でとらえながら急速にそのキヤメラを左から右へ回すと古城の左の空に浮かんでいた月がスースと走るように右へ移動した。雷鳴や狼の遠吠えのまえに静かなこの夜の古城と満月、これがこんどの「ドラキュラ」に新しい感覚をも

ズが演じる)の登場となるのだが、その彼の少年のころ父とドライブ中に小便がしたくなり白人のガソリン・スタンドでトイレをかりようとした。ところが白人は黒人にトイレを使わせなかつた。そこらの木の影でやれ、しかしそこもわしらの土地だから小便代は払えといわれる。これは一九三二年(昭和七年)のころである。

京劇、歌舞伎、文楽でクラシック芸術を、映画で今日の感覚美学を、そしてテレビで(あらゆる)知ること。私たちはこれらのことをおろそかにしては常識と美学精神の枯れた貧しさだけが残る。

X



「ルーツ2」
トムには女の子が生まれた。

つてこのクラシックの作品をそこねることなく月のすばやい移動で怪奇のムードを出した。

X

こんどテレビの「ルーツ」が「ルーツ2」を放映する。テレビは映画とちがつてもつと一般にわかりよく話しかける。わかりよくということで芸術味を失うがテレビの使命は(わかつてもらう)ことにある。この「ルーツ2」は前回のチキン・ジョージからつづき、ついには原作者アレックス・ヘイリー(ジェームス・アール・ジョン

フランク・ランジェラの
「ドラキュラ」

女体自慰

セックス・フレンド

細川 董たなべ

△文とえ／哲学者▽

まだ独身の彼は、神戸の山手のマンションに一人住ま
いである。仕事は彫金。仕事柄、ガールフレンドには事
かかない。

その中にはセックスフレンドも何人かいる。

というより、男前の日本人離れした彼のムードに、大
抵のガールフレンドは自然とセックスフレンドに移行し
て行ったのである。

或る日、イギリス人の昔のガールフレンドが訪れて來
て、ちょうど彫金を習いに來ていたセックスフレンドと
鉢合わせになり久しぶりに話し込んで帰れなくなり、と
うとう彼をはさんで三人でベッドインすることになつて
しまった。セックスフレンドの彼女も

「いいわよ。いつしょに寝ましょうよ」

などと何疑わず、シャアシヤアとイギリス女を同じベッ
ドへ招じ入れ、日本人の遠慮深さから何くわぬ顔で彼の
手を握りさえせず静かに寝てしまつた。

すると、その時、彼の胸元へ一本の手が伸びて來た。
△寝たはずなのに。まさか？▽と疑つたのもつかの間、
手はどうもイギリス人のガールフレンドらしい。
手はしばらく彼の乳房を愛撫していたと思うとだんだ
ん下の方へ下りはじめたのである。

彼は寝込んでいるセックスフレンドの彼女が起きはし
ないかと声もたれずイギリス女のなすにまかせた。
むしろ嬉しかった。彼女は積極的だった。

傍に、日本女が寝ていることなど顧みなかつた。女は

あつかましい。彼も独り身。

据え膳食わぬは、何とやら……。

翌朝、外国女が帰つてから、

「ゆうべはごちそうさま」

と、眠りこけていた日本女に、皮肉をいわれた時は冷や
汗をどつとかいたものだ。バレていたのだ。スラリと伸びてよく發育した外国女の下半身。巾狭く
もり上つた胸と尻。生ながらの長いまつげと青い瞳。
さわやかに波打つブランド。抜けるように白い肌。
ねばつこくからみつく豊かな分泌液とその芳香。

外国女のバイタリティーと積極さ、大胆さ。
謹み深いはずの英國娘の夢など、イップンに吹っ飛
んでしまう迫力だった。

小さくて可愛いといえどそれまでだが、陰湿でやせ
て栄養不良でちんちくりんで、根性のひんまがつた、日
本の小娘がその時いかにも貧弱に思えたことか。
寝ているフリをし続けて、自分のセックスフレンドの
外国女との情事を、息をひそめて観察しつづけた日本女
の忍耐を思うと彼は裏めさせ覚えて來た。

たかが、セックスフレンドではないか。何故その時ム
スクと起きて英國娘を追い出さなかつたのか？やはり日
本娘のプライドが許さなかつたのか？

それはそれとして、外国女を送り出してから後の、彼
女の求め方は普通ではなかつた。昼間だというのに。

こんなんだつたら、タバ、国際的なトリプルプレイを

してくれたらよかったですのに。

しかし、それを求めるのは夢の話かもしれない！

今直面している現実を一つ一つ片付けていかなければ。彼は昨夜使い果した力をふりしほって、辛抱強い忍耐の女のプライドのために必死で協力したのである。

最後の一滴までしぶりとられる、というのはこういうセックスをいうのか。いかに独身とはいえ腰も使いすぎてはだめになるものだ。

悶え、快感を何度も味わいつづけているセックスフレンドが、満ちたりるまでおつきあいすることは大変である。彼女も大した女に成長したのだ。

彫金を習い始めた頃の彼女は彼に求められる度に痛がつていた固い固いっぽみだったのに。

最後に、彼女がエクスタシーの波をかぶる時、とうに果てた彼は必死で協力したのだが、それはもう、ほんとうに全身の力をふりしぼるといった形容が当てはまるものだった。事が終つて彼女は

「お腹へつたわね。何か食べたい？」

といった。もういつの間にか、外は暗くなつて来ているのだからお腹がへるものも道理だ。激しいスポーツだった。しかし、彼はあまりしつこいものはのどを通りそうになかつた。

「ゆうべの寿司屋へいこうか？うまかったじやない？」
と気嫌なおしと思つてべんぢやらを言つた。「ええ、いいわ」二人は、三宮の山手の、とある寿司屋のカウンターでお好み寿司に疲れをいやした。

「お寿司は何度食べててもおいしいわねえ。夕べはごちそうさま」「え？」

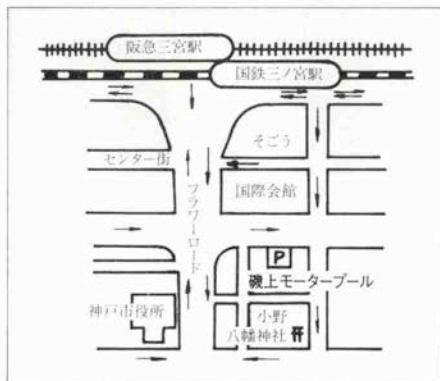
まだ彼女は、英國女のことを皮肉つてゐるのか？

「何いってるよ。夕べもここでごちそうになつたじやない。今日は連續二晩目よ。わたし、夕べお寿司ごちそうになつて夢見ちゃつた！ほんとに夕べはよく寝たわ」

「え？」「あなたは？」
「いや……その……もちろんよく寝たよ」



ビジネスに、ショッピングに、
三宮で一番便利な
自走式立体モーターポールです



- 収容台数300台
- 月極駐車可
- 年中無休

(8:00AM~11:00PM)

磯上モーターポール

(神戸国際会館前)
TEL (078) 251-7873

船上Party
10月27日(土) 4:00~9:00PM
洲本・大阪湾一周
(中止堤4:30出港・8:00帰港・8:30下船) (関西汽船3000トン)
会費 1万円 ご参加をお待ちしております



夕陽が沈む瀬戸の海に向って……せまり
くる六甲の山々、いつの間にか星が光り
百万ドルの神戸の夜景は手の中で輝いて
しばしの船旅にポン・ボヤージュ！

SHOW

大人の歌をじっくり聞かせてくれる
ダークダックス。そのハーモニーは
心よい酔いの世界にさそってくれる
ステージは三回行なわれます。

BAZAAR

パリのサントノーレ、ニューヨーク
の五番街といったプロムナードがこ
はく丸の船上に……。毛皮は種類の
多さとデザインの豊富さがお気に召
していただけるでしょう。

WINE

本場フランス・ボルドーワインをお、
楽しみください。

SAMBA

神戸っ子サンバチームで陽気にお楽し
く踊りあかしましょう。船上はもう
琥珀色のリズム一色。

お問い合わせ
お申し込みは

月刊 神戸っ子

(331)
2246

Hat dog



なんすい
軟水のCoffee
味、また格別。

営業時間 午前10時～翌午前2時



コーヒーハウス
ハットドッグ

バス停(中山手1丁目)南側角

☎ (078)321-1689

豪華さとくつろぎと本物の味



ハイセンスな神戸っ子の憩いのオアシス
気品ある雰囲気のなかでおくつろぎください



喫茶館
仮蘭西屋

三宮・フラワーロード(神戸市役所前)

TEL 078-232-4643